

正気地区

第2層協議体



令和8年度メンバー

団体名

元気ステーションまさき推進委員会

スローガン

支え合いは、みんなの手で進めよう！

協議体の特徴

令和元年12月に東金市内で最初に第2層協議体を設置。

協議体は、地区振興協議会、区長会、地区社会福祉協議会等の地域住民に加え、地区内の社会福祉法人と医療法人にて構成される。

令和2年に実施した高齢者ニーズ調査から見えた地域課題「介護予防」と「社会参加」について、ターゲット別（外に出て参加できる人／参加したくても家から出ることができない人／参加したくない人）に協議を進め、令和4年度から通いの場の開催と広報誌の発行を開始。

令和6年度からは、認知症の啓発活動にも取り組んでいる。

これまでの歩み

令和元年12月	正気地区介護予防・生活支援サービス推進委員会設立
令和2年2月	高齢者ニーズ調査を実施
令和4年7月	第1回「通いの場元気ステーションまさき」開催
令和4年7月	広報誌「元気ステーションまさき」第1号発行
令和5年4月	正気地区振興協議会へ加入
令和5年11月	第1回「通いの場元気ステーションまさき お楽しみバスツアー」開催
令和6年7月	認知症啓発活動を開始
令和7年1月	委員会の名称を「元気ステーションまさき推進委員会」に変更



外に出て参加する

通いの場 元気ステーションまさき

- ◆ 1・3・7・9月 家徳公民館にて開催
- ◆ 各種サークルや専門職による多彩なプログラムで健康づくりを応援
- ◆ ドアツードアの個別送迎対応（希望者）
- ◆ 地区のボランティアスタッフが活躍



- ◆ 開始当時は数名だった参加者は回を重ねるごとに増え、令和7年度は約40名が参加した。
- ◆ 介護予防の効果に合わせ、仲間づくり・役割づくり・地域のつながりづくりの場になっている。



家にも地域とつながる

広報誌 元気ステーションまさき

- ◆ 1・4・7・10月発行
- ◆ 回覧及び民生委員による一人暮らし高齢者への配布
- ◆ 「各区の紹介」など身近な情報を掲載
- ◆ 「通いの場元気ステーションまさき」の様子をお知らせ
- ◆ 大きい字とたくさんの写真で高齢者に優しい誌面



- ◆ 民生委員による一人暮らし高齢者への配布で、定期的な見守りの機会になっている。
- ◆ 地区への愛着やつながりを感じることができる。
- ◆ 健康づくり・仲間づくりを呼びかけ、外に出るきっかけになっている。



外出する喜びを支援

通いの場 元気ステーションまさき お楽しみバスツアー

- ◆ 通いの場の一環として5月と11月に開催
- ◆ 買い物や外食を組み合わせ、これまでに銚子・成田・いすみ方面へ外出
- ◆ 構成団体である医療法人のバスを利用
- ◆ 地区のボランティアスタッフが活躍



- ◆ 目で見えて買い物できる喜び、みんなで食事をともにする喜びを味わうことができる。
- ◆ バスの車中はおしゃべりが絶えない。仲間づくり・地域のつながりづくりの場になっている。



気かけあう 地域を目指して

認知症の啓発活動

- ◆ 「通いの場元気ステーションまさき」では、浅井病院秀野名誉院長による座談会を実施。認知症をテーマにさまざまな講話で理解を深めるとともに、ざっくばらんな質疑応答が好評。
- ◆ 「認知症ワンポイント」を広報誌に掲載。認知症の方の「心温まるエピソード」などを紹介している。



- ◆ 参加者の声
「参加するたびに色々な話が聞けて大変ためになります」
- ◆ 役員の思い
「認知症への理解を深め、隣近所で気かけあうことが大事。正気地区が先頭となり取り組んでいきたい」



認知症の方の「心あたまる事例」をご紹介します

認知症を患っても「嬉しい」「楽しい」「悲しい」といった感情はしっかりと残っており、病気を抱えているだけで、一人の大切な“人”であることに変わりはありません。

周囲の方も、無理に特別な支援をしようとするより、まずは認知症についての理解を深め、その方の思いに寄り添う姿勢を持つことが大切です。



得意だったことが『役割』になる

長年、庭いじりが大好きだった男性。認知症になってからも、デイサービスの中庭の植物に目を向けて「水がほしいみたいだな」と気づくのが誰よりも早かったそうです。スタッフが「園芸リーダー」をお願いすると「任せとけ!」と誇らしげに毎日チェック。周囲の方にも「この花はね…」と教えてくれ、自然と小さなコミュニティができました。“役割があると、人はますます生き生きする”ことを教えてくれる一側です。